

深さをもつた演劇のまち



豊岡市長 中貝 宗治

年 あいさつ

あけましておめでとうございます。市民の皆さまにとって、今年1年が笑顔あふれる年になりますように。

豊岡市は、地方創生Ⅱ人口減少対策を進めるための第4のエンジンとして、「深さをもつた演劇のまち」の実現を目指しています。

豊岡の人口減少の最大の要因は、若年層の流出にあります。それは、「豊岡に暮らす価値」が若者たち選ばれていないことを意味します。私たちは、「大都市に暮らす価値」に対抗しうる、突き抜けた「豊岡に暮らす価値」を築いていかなければなりません。

その旗印が、「小さな世界都市ーLocal & Global Cityー」です。豊岡の地域に深く根ざしながら、世界で輝き、若者を引き付けようという戦略です。

突き抜けた価値を創り出し、世界に飛び立つための第1のエンジンはコウノトリの野生復帰、第2のエンジンはコウノトリ育むお米の輸出、第3のエンジンはインバウンドの促進でした。そして新たに加わったエンジンが、「深さをもつた演劇のまち」の実現です。

永楽館は、大きさや華やかさでは歌舞伎座や南座の足元にも及びません。しかし、永楽館歌舞伎は、舞台と客席との圧倒的な一体感によって、それらに勝るとも劣らない別次元の面白さで高い支持を得ています。城崎国際アートセンターには、世界中から一流のアーティスト

が続々とやってきています。演劇と観光を学ぶ県立の「国際観光芸術専門職大学(仮称)」は、2021年4月の開校を目指して準備が進められています。また、学長候補の劇作家・平田オリザ氏は、既に豊岡に移住され、氏が主宰する劇団「青年団」の活動拠点・「江原河畔劇場」も今年春完成の予定です。

演劇のプレーヤーがそろってきました。今年はさらに、国際的な演劇祭である「豊岡演劇祭」を本格的にスタートさせることにしています。5年でアジアのナンバー1、10年で世界有数の演劇祭を目指します(平田オリザ氏談)。

それだけではありません。豊岡では17年度からローカル&グローバル教育が始まっています。その柱の一つが小6と中1での「演劇によるコミュニケーション能力の向上」です。自分たちで演劇を作り、演じることを通じてコミュニケーション能力につながっていく取組みです。小学校低学年を対象にした「演劇による非認知能力の向上」、「演劇的要素を取り入れた運動遊びによる発達障害児の発達支援」の取組みも始まっています。単に演劇を楽しめるだけでなく、まちの隅々で演劇が役割を果たしているまち。それが「深さをもつた演劇のまち」です。

「小さな世界都市」の旗を高く掲げ、市民一丸となって、圧倒的に突き抜けた「豊岡市で暮らす価値」の創造を続けてまいります。

新 年頭のご



豊岡市議会議長 関貫久仁郎

「ONE TEAM豊岡」の心で

新元号「令和」初のお正月です。新年あけましておめでとうございます。市民の皆さまと共に新しい年を迎えることができ、大変うれしく思います。本年が皆さまにとり、より穏やかで心豊かな年となるように願っております。

昨年、台風の影響等により、全国各地で最大級の警戒を要する特別警報が発令されました。「命を守る行動を」と報道される度に心が痛み、無事を祈るばかりでした。被災地の一日も早い復旧、復興を願うとともに、日頃より減災・防災の意識を高め、いざと言うときの備えを心掛けていきたいものです。

市は、「小さな世界都市」一小さくても世界で輝くまち・尊敬されるまちを目指し、コウノトリ野生復帰、環境創造型農業や木質バイオマス利活用等の環境経済戦略の推進のほか、城崎国際アートセンターへの世界中からの舞台芸術アーティスト招聘や劇団・観光芸術の専門職大奨励等による「演劇のまち豊岡」一若者が住みたいと思うまちづくりの推進など、さまざまな施策を進めています。

合併後15年目となる本年、一度立ち止まり、これまでの結果を総括してみる必要があるかもしれません。市民の皆さまの暮らしはどうだったか、これからどうして行くべきかを。

少子化・人口減少問題が正に現実として感じられるようになりました。公共施設再編を進め

なければならぬのもその一つです。財政悪化の予見から、取捨選択を迫られています。しかし、予見できるからこそ市は、市民の皆さまにとって現実的で有効な施策を推進しなければなりません。そのために議会は、より一層、市民の皆さまの意見を傾聴し、意をくみ取り、それを反映すべく行動をしまいたいと考えております。

昨年、大きな感動もありました。熱戦が繰り広げられた「ラグビーワールドカップ」。日本チームの活躍に、列島が盛り上がりました。「ONE TEAM」をスローガンに掲げ戦った選手からは、感動と喜び、そして「やればできる」という勇気ももらいました。

そして今年には東京オリンピック・パラリンピックの年。ワクワクします。スポーツをとおり、また日本中が、世界中が元気になると思います。東京2020、暑い夏が待ち遠しいです。

「やればできる」という気概を持って、目立つこと、派手さはなくても、地道な日々の努力を続け、頂点に上り詰めるアスリートのように、何事にも果敢に挑戦し、そして目の前の課題や問題を一つ一つ着実に解決できる「ONE TEAM豊岡」の心で、誰もが「住んで良かった」と言える穏やかで、安全・安心なふるさとを創っていききたいものです。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

〔背景写真：来日岳から見るご来光〕